

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年 3月30日

事業所名 放課後等デイサービス 学びの郷

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4人	2人	0人	限られたスペース拡張のためにロフトを作ったりしている。勉強、作業のためのフロアからの干渉を受けにくいスペース確保している。	整理整頓をさらに心がける。
	2	職員の配置数は適切である	4人	2人	0人		急遽欠員が出た時のために、パートで補充したほうが良い日も今後出てくるため、スタッフ確保を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6人	0人	0人	定期的に危険な場所がないか担当が確認し、かいぜんにつとめている。	危険認知についてスタッフ間でも感覚が異なるので、持ち回りで調査報告を行えるようにする。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6人	0人	0人	活動前・活動後にできるだけ多くのスタッフがいるときに課題を話し合い、支援に繋がれていると思う。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6人	0人	0人	保護者からの意見をみなで共有し、改善に努めている。	保護者会は開催がいつも難しいので、企画を話しあいたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6人	0人	0人	HPを見やすく更新するように担当と話し合っている。	保護者の意見を書きやすくしたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1人	5人	0人	本社に意見を求めている	より外部に意見をもらえる仕組みが必要であり、本社と要検討。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6人	0人	0人	年2回、開催し、いかに子供に関心をもち、思いやれるかを検討している	研修内容を、終了後早い段階でまとめて、ご家庭にも報告したい。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6人	0人	0人	客観性が出るようにできるだけ多くのスタッフに参画してもらっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6人	0人	0人		アセスメントツールを用いるというより、経験則で進めてしまいがちであり、正しくアセスメントツールについてスタッフ間での理解をすすめる。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6人	0人	0人	スタッフの特異分野に応じてリーダーとなって企画発案してもらい、みなで意見をだして作り上げている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6人	0人	0人		子供の特性上、固定化されたプログラムに安心、安定を感じるためどうしても固定化されやすいが、そこから新しい興味やコミュニケーションに繋げる意識をいつももつように意識している。。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6人	0人	0人	長期休暇ならではの関わりの変則性を利用して新しいコミュニケーションの開発を意識している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6人	0人	0人	個別活動を好む子に対して、複数でできるものを提案、提供して少しずつ集団での関わりに自信を持てるように取り組んでいる。	

15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6人	0人	0人	平日は昼から子供の送迎までの間に、長期休暇の時には時間がないので、終業後に確認・周知している。	役割分担については流動的になることも多いので、臨機応変でありつつも基本的な部分はしっかりと決めて把握しておくようにする。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6人	0人	0人	実績を記入しながらかわっている子たちについて詳しく聞き取りが実施されている。	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6人	0人	0人	記録を毎日つけて、終業時に共有しきれないことは翌日のミーティングにて確認が行われている	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6人	0人	0人	定期的なモニタリングに加え、日々のミーティング時に利用者一人一人をできるだけ多く取り上げて、支援の改善点やあり方を確認している。	児発管主導になるので、支援計画に関してもその子に理解の深いスタッフに深く関わってもらうようにしていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	6人	0人	0人		偏りがないように内容がバランスのとれたものになるように、支援に関する雑誌などの情報をより得るようにする。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6人	0人	0人	中学生女子は多感な時期なので、女性スタッフだけで支援会議をするなど、配慮している。	そのほか支援会議に、多くのスタッフが参加できるように促している。
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6人	0人	0人	お迎え時にできるだけ担任や関係者とコミュニケーションとるようにしている。	連携が密でないところもあるため、支援会議に学校関係者に参加を促し、連携をスムーズにできるように取む。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1人	5人	0人		今後ニーズが増えることが予想されるので、研修に参加していきたい。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0人	4人	2人		こちらから対象となる施設、関係機関に出向いていきたい。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5人	1人	0人	保護者に必要と思える点をお伝えし、スムーズな移行になるようにサポートしている。	今後は直接移行先に出向き、情報共有していきたい。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0人	1人	5人		どこで受けることができるか把握していない。当該専門機関がこの地域でどこになるか確認していく。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5人	1人	0人		施設に、利用者のクラスの友達を招待したり、屋外活動時に、他児から接触があったときには、確認をとってから一緒に活動することもしている。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0人	6人	0人	通知があったときにはできるだけ参加している。	管理者がメインで参加しているので、今後はスタッフも参加を勧めたい。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6人	0人	0人	送迎時、少しの時間をとり、玄関先でも最近の自宅での様子、デイでの活動についてお話する機会を作っている。	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6人	0人	0人	LINEを活用し、困り感の発信、ご相談があったときにはできるだけ早く対応し、安心感をもっていただけるようにしている。	対応力に関して役立つ情報を定期的にお伝えするようになる。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6人	0人	0人	送迎時お会いできないことも多く、動画や写真をつけて活動について奉公するようにしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6人	0人	0人	発信があった場合、すぐに対応するようにしている。	可能な限りスタッフにも細かく共有し、同じ思いをもって支援にあたるようになる。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0人	6人	0人		各ご家庭の忙しさもあり、なかなか実現が難しいが、イベントを保護者にも参加できる形を作り、呼びかける。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6人	0人	0人		祖父母など直接親御さんにご連絡できない場合に、連絡不備で不安や心配を大きくしてしまうことがあるため、出来る限り当日中に、会いに行ったり、連絡を残すようにする。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6人	0人	0人	定期的にHPを更新し、見ていただけるように促している。	まだHPについて十分しられていないことや、なかなか見るに至らない現実があるため、定期的にリンクを送ったりして、HPを認識してもらう。
	35	個人情報に十分注意している	6人	0人	0人	ブログでは顔がわからないように加工したり、動画や写真を報告用に用いる時にも、許可を得ているご家庭のみに行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6人	0人	0人	本人の伝え方では不十分であることが予想される場合には、時間を作って、詳細や経緯を代わって伝えるように工夫している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0人	3人	3人		コロナ後、その機会が少なくなっているので、積極的に企画、招待していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0人	6人	0人		ご家庭への周知が不十分と感じる。定期的にお伝えできる仕組みを作りたい。HPに掲載できるものは閲覧を促す。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6人	0人	0人		行ったことをしっかりと保護者にお伝えすることを意識していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6人	0人	0人	定期的に虐待について話し合いしている。	事例についてもっと知る必要がある。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6人	0人	0人	拘束が必要になりかねない利用者本人にもご家庭にも、理解を得られるように定期的にお話している。	可能性が低い児童においても、ご家庭に取り決りを伝えるようにしておく必要がある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0人	6人	0人		アレルギーの有無をご家庭に確認し、スタッフ間でも周知しているが、医師の指示書をご家庭からの申し送りにとどまっている。指示書がある場合はそのコピーをいただくようにする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6人	0人	0人		どこまでをヒヤリとしてあげるか分かりにくいので、まずは気になったことを毎日終業時に確認するようにし、もっと多くの報告をあげるようにしたい。